

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	143人	社会	143人	数学	143人
	理科	143人	英語	143人		

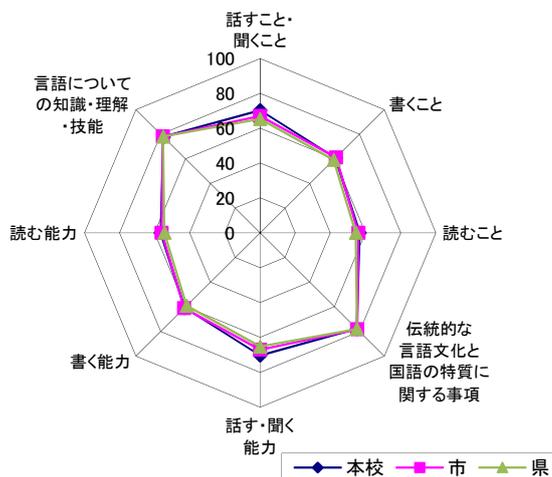
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	70.3	67.0	65.3
	書くこと	60.8	61.1	59.2
	読むこと	56.6	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.8	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	70.3	67.0	65.3
	書く能力	60.8	61.1	59.2
	読む能力	56.6	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	77.8	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

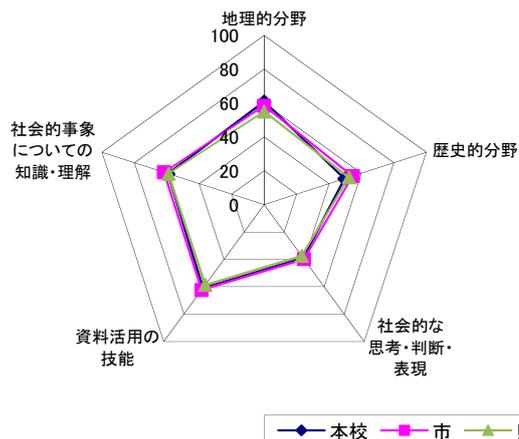
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は70.3%で、市の平均より3.3ポイント上回った。 ●自分の考えとの共通点や相違点を整理して聞く問題では市の平均を7ポイント上回ってこそいるが、正答率は50%を下回っている。	・社会生活のなかの話題などについて、自分の考えを明確にした後で、他者と考えを交流し、自分の考えを深めたり、他者の考えから共通点や相違点を見つける活動を行っていく。
書くこと	○話し合いを基にして要旨を記述する問題では、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ●正答率は60.8%で、市の平均より0.3ポイント下回った。話し合いを基にして要旨を記述する問題では、市の平均は上回っているが、正答率は30%台にとどまっている。	・伝えたい事実や事柄を明確に伝えられるような、構成の整った文章を書く練習を継続的に行っていく。
読むこと	○正答率は56.6%で、市の平均より0.6ポイント上回った。 ●文章の展開に即して内容を把握する問題の正答率が市の平均を1.9ポイント下回った。	・詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流する活動などを継続的に行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○特に漢字の成り立ちや文節の分け方に関する問題での正答率が高い。 ●正答率は77.8%で、市の平均より0.4ポイント下回った。漢字の読み書きに関する問題の正答率が特に低い。	・漢字テストを継続的に行い、漢字の読み書きに一層習熟させる。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	60.9	58.4	55.0
	歴史的分野	49.6	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	38.9	39.8	37.5
	資料活用 of 技能	61.1	62.3	58.7
	社会的な事象についての知識・理解	59.1	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

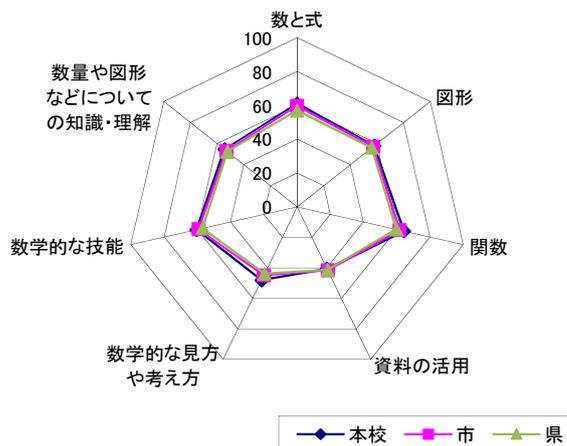
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○地理的分野について、県の正答率より5ポイント以上上回っている。</p> <p>○正距方位図法を使った正しい方位の読み取りに関する問いについて、県の正答率より13ポイント以上、市の正答率より8ポイント以上上回っていた。</p> <p>●冷帯の特徴と気候帯の分布図における分布地域を答える問題について、市の正答率より5ポイント下回っていた。</p> <p>●複数の資料からアフリカの経済における課題を考察するや複数の資料からアメリカの農業の特徴を考察する問いの正答率が低かった。</p>	<p>・それぞれの気候帯について理解させ、地図を用いて気候帯の分布を考察し、気候帯の分布を理解させるように指導していきたい。</p> <p>・複数の資料を読み取り、考察し、自らの意見を書き表すような活動を取り入れ、必要な情報を選び課題を解決していく力を高めさせてたい。</p>
歴史的分野	<p>○縄文時代～古墳時代の分野において、市の正答率より1.2ポイント上回っていた。</p> <p>●承久の乱後の鎌倉幕府の政策について考察すると問いについて、県の正答率より8.5ポイント、市の正答率より11.6ポイント以上下回っていた。</p> <p>●鎌倉幕府と室町幕府のしくみの違いを読み取る問いについて、県の正答率より11ポイント以上、市の正答率より15ポイント以上下回っていた。</p>	<p>・事件や出来事の結果から次に起こる事象を考察させ、その時代を大観し、特色をとらえさせるように指導していきたい。</p> <p>・鎌倉幕府と室町幕府の組織図を比較させ、それぞれの違いを理解させるように指導していきたい。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	61.1	59.8	57.0
	図形	57.9	57.1	56.1
	関数	64.3	61.8	59.8
	資料の活用	40.6	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	48.1	44.9	43.9
	数学的な技能	60.4	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	54.5	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

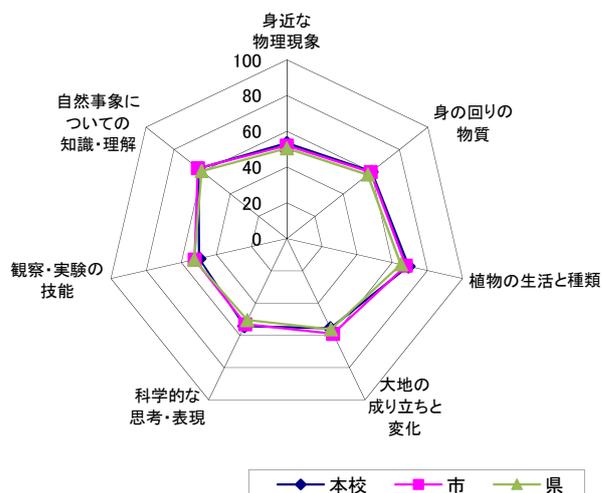
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○四則が混じった正負の数の計算では、県の平均を15.2ポイント、市の平均を11.6ポイント上回っており、計算技能が身につけている。</p> <p>●一次方程式の立式の問題の正答率が30.2%であり、多くの生徒が苦手としている。また、市の平均よりも2.3ポイント低い。</p>	<p>・授業始めの小テストを継続して行い、基本的な計算技能を身に付けさせる。</p> <p>・方程式の活用では、文章から等しい関係を見つけさせ、立式する活動に重点を置きたい。</p>
図形	<p>○三角形の移動の問題について、県の平均を19.1ポイント、市の平均を16.9ポイント上回っており、平行移動、対称移動、回転移動について理解されている。</p> <p>●辺と平行な面を選ぶ問題と正四角錐の体積を求める問題で、いずれも県の平均と市の平均を5ポイント以上下回っている。</p>	<p>・作図の授業では、作図をするだけでなく、方法を説明させる活動を取り入れていく。</p> <p>・空間図形に関して、立体模型などの具体物を用いて理解させたり、表面積や体積などの演習の時間を入れていきたい。</p>
関数	<p>○比例の活用の問題で、グラフを選んだ理由を書く問題では県・市ともに10ポイント以上平均を上回っている。また、時間を求める問題では、県の平均を8.0ポイント、市の平均を5.3ポイント上回っている。</p> <p>●反比例のグラフを選ぶ問題と比例のグラフをかく問題でいずれも県と市の平均を下回っている。</p>	<p>・基本的なグラフをかくことに課題があるので、グラフについての基礎定着を図りたい。</p>
資料の活用	<p>○条件を満たす階級の階級値を求める問題では、正答率が県の平均より6.4ポイント、市の平均よりも0.7ポイント高い。</p> <p>●ヒストグラムから最頻値を求める問題の正答率が15.1%と非常に低い。また、県平均よりも3.6ポイント、市平均よりも1.7ポイント下回っている。</p>	<p>・代表値を求める活動については、度数分布表からだけでなく、ヒストグラムからも求めさせる問題をもっと取り入れたい。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	53.4	52.1	50.5
	身の回りの物質	60.1	59.6	57.4
	植物の生活と種類	69.2	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	55.6	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	54.2	53.1	50.6
	観察・実験の技能	49.9	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	62.8	63.1	60.5



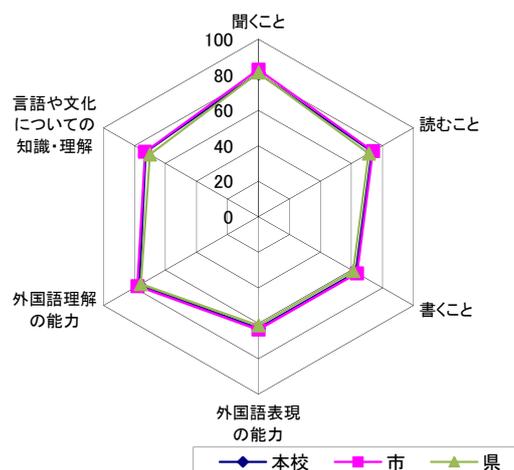
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>○ 領域正答率は53.4%と市や県を上回っている。特に「光と音」における光の反射の道すじや音を波形で比較したときの音の大きさと高さの問題などは市や県の平均を3ポイント以上上回っている。</p> <p>● メスシリンダーを使って体積を測定したり、密度の大きさから物体の浮き沈みを考える問題は市の平均を下回っている。</p>	<p>○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの</p> <p>・実験器具を使った測定を行い、その結果からいろいろな法則を導きだすという課程で、理解度を確認しながら授業を進める。</p> <p>・光と音の単元では、実験結果などを情報機器を利用して視覚化し理解しやすくする。</p>
身の回りの物質	<p>○ 領域正答率は60.1%と市や県を上回っている。特に「水溶液」における質量パーセント濃度を求める問題などは市や県の平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>● ガスバーナーを正しく操作する手順の問題は県や市の平均を下回っている。</p>	<p>・実験器具の扱い方では、ガスバーナーの使い方など基本的な操作についてグループ内での教えあい活動や使い方の復習テストなどを行い、操作方法を身につけさせる。</p> <p>・状態変化については、D層の正答率があまり良くないので、1学年での単元についても復習をする機会をつくっていくようにする。</p>
植物の生活と種類	<p>○ 領域正答率は69.2%と市や県を上回っている。特に「植物の体のつくりとはたらき」におけるアブラナとマツの胚珠の位置の問題では市や県の平均を8ポイント以上上回っている。</p> <p>● 実験結果から光合成によってできる物質が分かる問題は県や市の平均を下回っている。</p>	<p>・実験を行う際に、予想をたて、実験をし、実験結果をまとめ、考察するという一連の手順を丁寧に行うことを重点とし、その結果をしっかりと理解させる。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>○ 柱状図の比較から地層が堆積した順序を推測する問題は県や市の平均を4ポイント以上上回っている。</p> <p>● 領域正答率は55.6%と市や県を下回っている。特に「地層の重なりと過去の様子」におけるしゅう曲の問題では市や県の平均を5ポイント以上下回っている。</p>	<p>・基礎基本を定着させるために、単元での重要な用語などについて、繰り返し練習する機会を多く設ける。</p> <p>・岩石標本などの実物を使っての学習とともに、視聴覚機器を活用して興味関心をもたせ、知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	80.9	82.9	81.2
	読むこと	73.3	73.9	71.2
	書くこと	62.8	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	62.8	63.6	61.2
	外国語理解の能力	76.9	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	72.7	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の平均正答率は80.9%で県の平均より0.3ポイント、また市より2ポイント下回っている。 ●問題の内容別では、「対話文の聞き取り」が0.7ポイント、「対話文の聞き取りと応答」が1.2ポイント、「まとまりのある英語の聞き取り」が4.4ポイントと市の平均よりいずれも下回っている。	・「対話文の聞き取り」「まとまりのある英語の聞き取り」など、いろいろな聞き取り問題に対応できるように、授業では、「読み取る活動」より「聞き取る活動」の比率を高めたり、強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴を再度確認したり、教科書のListenの部分などを活用し、まとまった英文などの概要や要点を適切に聞き取る能力の向上を図りたい。
読むこと	○領域の平均正答率は73.3%で県の平均より2.1ポイント高いが、市より0.6ポイント下回っている。 ●問題の内容別では「語彙の理解」が県の平均より2.8ポイント、市より7ポイントも下回っている。また「まとまりのある英文の読み取り」が1.4ポイント、「長文の読み取り」も0.5ポイント市の平均より低い。	・「語彙の理解」を高めるために、日々単語の練習など基礎基本に力を入れて授業展開を行う。また「長文の読み取り」では、様々な分野の長文に触れさせ、物語のあらすじや説明文の要点をとらえたり、伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解したり、いろいろな情報を読み取るなど、英文の読み取り能力の向上を図りたい。
書くこと	○領域の平均正答率は62.8%で県の平均より1.6ポイント高いが、市より0.8ポイント下回っている。 ●問題の内容別では「場面や条件に応じた英作文」が市の平均より1.2ポイント、「テーマに基づく英作文」が0.5ポイント市の平均より低い。	・現在行っている「聞いた英文を書く」、「読んだ英文をまとめて書く」といった統合的な活動をさらに充実させたり、生徒の身近な話題など、様々な場面やテーマに沿った英作文に取り組みせ、書く能力の向上を図りたい。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」との設問では県や市では65%程度なのに対して本校では77%と授業に対して積極的に取り組む意欲が見られる。A層(上位25%)からD層(下位25%)までどの層でも県や市の平均を上回っており、特にA層では94%の生徒が肯定している。
- 「好きな教科は国語」との設問では、県や市では65%程度なのに対し、本校では80%近い。読書が好きな生徒が多く、学校での朝の読書へ取組なども積極的である。また、「国語は将来のために大切だと」答えている生徒はA層からD層まですべて90%を上回っており、目的意識も高い。
- 「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」との設問では県や市では55%程度なのに対し、本校では64%である。特にD層では県や市では43%程度なのに対し本校では57%と高い。4月から自主学習ノートの活用を進めている効果が少し表れていると思われる。
- 学ぶ意欲に対する質問ではほとんどの項目で県や市の平均を上回っており、意欲は感じられるため、今後も意欲を高めていきたい。
- 家庭での学習時間に対する項目では、平日休日とも全く学習しないという生徒が、県や市の平均より多い。特にC層、D層の割合が多く、学習時間と成績の関係が推測される。家庭学習が身に付いていない生徒への手立ての工夫が必要である。
- 平日テレビなどを見る時間が4時間以上の生徒がD層では23%もいる。また、テレビゲームを4時間以上している生徒もC層D層合わせて32%もいる。また、携帯やスマートフォンを3時間以上している生徒はC層D層合わせて29%もいる。A層B層の合計は9%弱なので、家庭での過ごし方を学校から積極的に情報発信し、保護者とともに見直していく必要がある。